

フィールドワーカー集団 **FENICIS** の気鋭研究者たちが、二十世紀の映像百科事典に出会う見逃せない七夜!



12/2

ノーバナ
ノーライ!

佐藤靖明
小谷真吾
小松かおり他



12/3

サルをみる
ヒトをみる

座馬耕一郎
椎野若菜



12/7

異界との
通路をひらく

春日聡
久保田麻琴

スーダン
ヌバ
変わる生活
変わらない魂

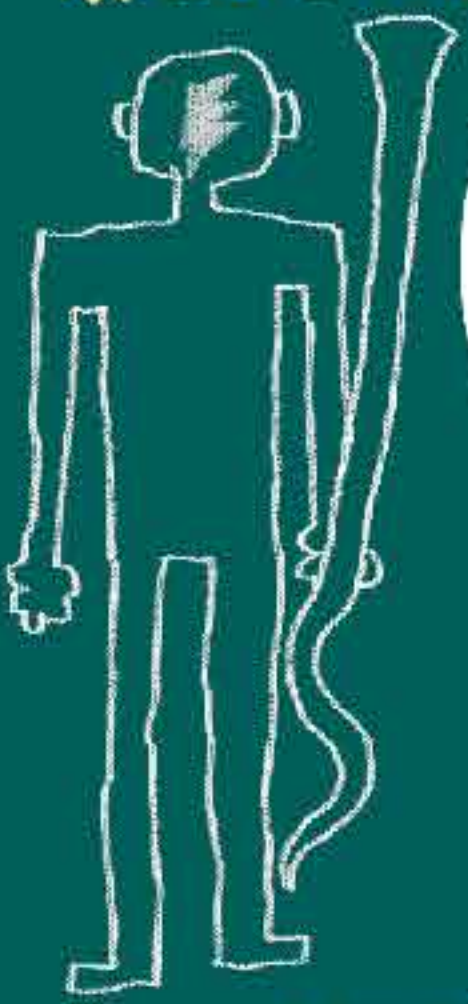
村橋 勲
エルヌール・クワ・マツキ

12/4



佐藤剛裕

12/8 踊るチベット



12/5

100年後
の糸と布

分藤大翼
田中景子

20世紀の世界中の人びとの暮らし
生きものの生態を記録した映像の百科事典

インサイクロペディア・シネマトグラフィカ

を見る



川瀬 慈
環ROY

12/6

語りと歌の
境界で





世界中の人の暮らしと生き物の生態を記録して、映像の百科事典をつくる。

そんな壮大な計画が第2次世界大戦が終わったばかりのドイツではじまりました。それがエンサイクロペディア・シネマトグラフィカ=ECフィルムです。多くの研究者やカメラマンが世界各地に赴き映像を記録。熱い議論を重ねながら3000タイトル強がアーカイブされました。当時は16mmフィルム、その多くはモノクロの音なしでの記録です。

たとえば、収穫した粉を挽き、ぐるぐると練り食べる家族の食卓。植物から取り出された繊維が手品のように丈夫なひもによられていく様子。シロアリ釣りを練習するチンパンジーの親子、ゆったりと流れるようなヒトの親子の時間…。

どこにいても人は身近にあるものを集めて、道具をつくり、狩りをし、火を起こし、調理して食べ、子どもを産み、家をつくり、楽器を奏で、歌い踊り、死んでいく。そして他の生きもの達も変わることなく個性豊かな生を全うする。あたりまえの「生」の姿の集積であるこの映像群は、時を経て今私達に何を伝えているのでしょうか？



「生きていくために本当に必要なものは何？」
「それは自分の手で作れるのか？」
「生きることの本質は何だろう？」

ECフィルムが撮られた時代に比べて格段に便利になり、世界が近くなった現代。しかし、そのことが本当に私達に幸福をもたらすのか、自分の手や身体を通して感じ、考え、行動することから遠ざかってはいまいか。私達は改めてさまざまな問いにぶつかっています。ECフィルムは過去からの手紙。それを今、タイムカプセルの蓋を開けるように、みなさんといっしょに読み解きながら答えを探して行ければと思います。

「映像のフィールドワーク」をともに。

ECフィルムはテロップやナレーションでの説明のない16mmフィルム。その多くはモノクロの音なしの映像です。この上映会では、ゲストをお招きし様々なテーマで映像を選んで観ていくライブです。といっても、ゲストの方々は「解説者」ではありません。私達は目の前に繰り広げられる出来事に驚き、観察し、発見をする旅の道連れ。もちろん客席のみなさんからも声を上げてください。

今回の上映会のゲストは、様々な分野で活躍する若手の研究者が中心となり音楽家やものづくり現場の方にも加わっていただきます。EC映像に加え、彼らが自分のフィールドで撮影した映像もいっしょに観たいと思います。実物やパフォーマンスなど思いもかけないものも飛び出すかも知れません。さて、どんな旅になるのか。ECフィルムへの旅をいっしょに！

12/2 土 **ノバナナ ノライフ!** 食べる・飲む・効く、バナナの世界

先着順で株式会社リマより、バナナカステラが提供されます!

最もポピュラーで身近なフルーツ、バナナ。世界の熱帯各地では、焼く・蒸す・ピールにする・薬にするなど多種多様に利用されており、生活になくてはならない植物です。バナナを求めて世界を旅する日本の研究者が勢揃いし、ウガンダとバブアニューギニアの映像をみながらバナナ食の魅力を語り尽くします!

佐藤靖明(民族植物学)/ 小谷真吾(生態人類学)
小松かおり(生態人類学)/ 北西功一(生態人類学)/ 四方 篤(熱帯農学)

熱帯各地のバナナ栽培地域で、グローバリゼーション影響下における在来の農と食の変容を明らかにすることを目的とする研究チーム。2016年にウガンダ、2017年にバブア・ニューギニアで共同調査をおこなった。(科研費2015-18年度「バナナから見る農のグローバリゼーションと在来文化の接続」代表:小松かおり)

- ◎【バナナビールづくりと酒宴】(E0303/東アフリカ ウルンディ/ルンディ族)1950年/11分/サイレント
- ◎【ケーキづくり(サゴヤシ、ココナツとバナナ)】(E1733/ニューギニア セビク川中流域/アイボム族)1960年/6分/サイレント
- ◎【バナナの葉での頭痛と首の痛みの呪術的治療】(E2652/西ニューギニア 中央高地/ハイメ族)1970年/3分/サイレント

特別上映 ●《ウガンダのバナナ》(2016年/小松かおり他) ●《ニューギニアのバナナ》(2017年/小松かおり他)

協力:株式会社リマ “すべらない懐かしい味 バナナカステラ” www.bananamuseum.co.jp



サルをみる ヒトをみる ヒトとサル、親と子、そしてベッド



親になるってどういうこと?現代日本では、子守りをしたり大人達の子育ての姿を見ながら育つことが少なくなりました。それゆえ、子どもを産むと唐突に「親」にならなければなりません。ほかの社会はどうでしょう? さまざまなヒトの社会、サルに焦点をあて、サルの観察、ヒトの観察、それぞれの達人が、子育ての文化の多様性について語り合います。

- ◎【父親と叔父の乳児の世話】(E3116/バブアニューギニア トロリアンド諸島 カイレウナ島/トロリアンド人)1980年/12分
- ◎【伯母は(甥姪の)世話をしない】(E3118/バブアニューギニア トロリアンド諸島 カイレウナ島/トロリアンド人)1980年/12分
- ◎【口移しでの給餌】(E3076/南西アフリカ カオコランド/ヒンバ族)1970年/5分/サイレント
- ◎【チンパンジー シロアリ釣り】(E3012)1986年/21分/サイレント ※一部上映
- ◎【コウノトリ 大きな幼鳥への給餌と給水】(E1004)1964年/9分/サイレント ※一部上映

特別上映 ●《チンパンジーのベッド作り》(タンザニア マハレ山塊国立公園/2010年/座馬耕一郎)
●《チンパンジーの「子育て」》(タンザニア マハレ山塊国立公園/1999-2017年/座馬耕一郎)
●《チンパンジーのベッドの上で》(タンザニア マハレ山塊国立公園/2010-2017年/座馬耕一郎)

スーダンヌバ 変わる生活 変わらない魂 映像の里帰り。スーダンへ

著名な写真家を魅了してきたスーダン、ヌバ。南スーダンの独立後、スーダンに属することになったヌバは、紛争を避けウガンダなど近隣の国々で難民として故郷に帰る日を待っています。長期の内戦により、かつての彼らの生活を記録した映像はほとんどありません。この夏、ECに残された1960年代当時のヌバの生活文化の映像を携えてフィールドワーク。内戦により近隣諸国で難民となったヌバの人達に見てもらうことができました。その記録に加え、これまで公式の映像記録がない南スーダン、ロピットの生活文化もあわせて上映します。

- ◎【料理と食事】(E0698/東アフリカ スーダン コルドファン/マサキン族)1963年/10分/サイレント
- ◎【キビの収穫】(E0703/東アフリカ スーダン コルドファン/マサキン族)1963年/10分/サイレント
- ◎【二人の角笛吹きの伴奏による合唱】(E0701/東アフリカ スーダン コルドファン/マサキン族)1963年/5分/サイレント
- ◎【レスリングの練習】(E0705/東アフリカ スーダン コルドファン/マサキン族)1963年/8分/サイレント

特別上映 ●《ヌバの生活の変化/インタビュー》(カンバラ/2017年/村橋 勲)
●《難民居住区の生活/インタビュー》(キリヤドゴ/2017年/村橋 勲)
●《ロピットのダンス》(南スーダン&カクマ/2013年&2017年/村橋勲)



100年後の糸と布 衣をめぐる人の営みから

人類と衣類。近年の研究では、両者の関係は8万3千年~17万年前までさかのぼると推測されています。遠い過去における裸の人類を想像することはできても、近い未来における裸の人類を想像することはできないのか?できないとしたら、私たちは衣類の未来に対して、どのような責任を負っているのでしょうか。貴重な映像作品を見ながら、「近い」未来における服作りについて、いま考えられること、できることを話し合います。

- ◎【電舌蘭繊維の糸づくりと紐づくり】(E1885/コロンビア シェラ・ネヴェダ・デ・サンタ・マルタ/アルファコ族)1969年/8分/サイレント
- ◎【紡ぎと織り】(E0527/タイ カレン族)1962年/7分/サイレント
- ◎【亜麻の収穫と加工(こく、たたく、梳く、紡ぐ)】(E1809/中央ヨーロッパ 西モラビア)1970年/10分/サイレント

特別上映 ●《コク/2015-2016→ Autumn / Winter Collection》(minä perhonen/2015年/藤井光)
●《からむしの糸づくり》(福島県大沼郡昭和村/2017年/分藤大翼)

分藤大翼(映像人類学)

1995年よりカメルーン共和国の熱帯雨林地域に暮らすBaka(バカ)という狩猟採集民の調査研究、ならびに記録映画の制作を行っている。「欠くことのできない文化とは何か?」という問いから、2018年より福島県の昭和村において、からむしの糸・布づくりをめぐる記録映画の制作を進めている。現在、信州大学准教授。

田中景子(ミナベルホネン テキスタイルデザイナー)

株式会社ミナ副社長、京都精華大学芸術学部造形学科テキスタイル専攻卒業後、2002年よりミナベルホネンに入社。テキスタイルデザイナーとして数々の展覧を生み出すとともに、代表である菅川明の下、さまざまなデザインプロジェクトや店舗開発などに幅広く関わる。

語りと歌の境界で 音楽行為と身体

そこに記録されているのは、語りとも歌とも唸りとも判別しがたい人間の「音楽行為」。アフリカの豊かな音楽的経験を示すEC映像に加え、川瀬慈による音楽をなわいりに生きる人々の記録映像を紹介します。人間の「音楽行為」の可能性と音楽と身体の関係について川瀬慈と環ROYが語り合います。

- ◎【コシ・オビが語るお伽話「ジャバンド」】(E1024/中央スーダン 南ワダイ/ジョンコール族)1960年/8分
- ◎【ジェスチャー遊戯「狩人と獣」】(E2105/南アフリカ カラハリ砂漠/ニコ・ブッシュマン)1970年/6分
- ◎【楽弓の演奏】(E1534/西アフリカ 象牙海岸/パウレ族)1960年/4分
- ◎【楽弓の伴奏による女王マゴゴ・カ・ディヌズルの三つの歌】(E1701/南アフリカ ナタール/ズール族)1960年/10分※一部上映

特別上映 ●《ラリベロッチの斉唱》(エチオピア北部/2002-2011年/川瀬慈) ●《ゲダモ少年の口笛》(エチオピア北部/2004年/川瀬慈)



川瀬 慈(映像人類学)

映像人類学者、国立民族学博物館准教授。主にエチオピアの音楽、言語の研究、および民族誌映画制作とその方法論についての研究に取り組み。映像作品に『強らの時代は』『ラリベロッチ「替舞の鳥」Room11.Ethiopia Hotel』『ザフィマニスタイルのゆくえん』『めぼえる歌-民謡の伝承と創造-』他。www.itsushikawase.com

環ROY(ラッパー)

1981年宮城県生まれ。東京都在住。主に音楽作品の制作を行う。これまでに最新作「なぞ」を含む5枚のCDアルバムを発表。国内外の様々な音楽祭に出演する。その他、パフォーマンス作品やインスタレーション作品、映画音楽などを制作。コラボレーションでの制作も多数行う。

異界との通路をひらく 音・舞踊・超越性

見えない世界との交流をはかり、聞こえないメッセージを聞こうとする、世界各地にあるトランス儀礼やシャーマニズムの記録。それは、鳴り響く音の場の記録であり、そこには音と共鳴しながら演奏・舞踊する人びとの姿が焼き付けられています。バリ島のトランス・ダンスや日本列島における祖霊、精霊、神仏と関わる音楽や舞踊の映像を見ながら、見えない/聞こえない世界との通路を開く音の超越性について語り合います。

- ◎【シャーマニズムの踊り】(E0213/北西パキスタン キルギット/ダート族)1950年/4分/サイレント
- ◎【トランスダンスの一部】(E2954/南アフリカ カラハリ砂漠/ニコ・ブッシュマン)1970年/10分
- ◎【サンヒアンとケチャ踊り】(E0236/バリ島 カランガセム地区)1920年/5分/サイレント
- ◎【夜の仮面の登場】(E2630/赤道アフリカ カルメーン草原/ティカール族)1970年/10分

特別上映 ●《サンギャンーバリのトランス儀礼》(バリ島各地/1997~2017/春日聡)
●《市山大元神楽式年祭》(鳥根県江津市/2006年/春日聡)
●《五島列島の太鼓踊り》(長崎県五島市/2014/春日聡)
●《観音提寺の修正会-達陀行法》(三重県伊賀市/2015/春日聡)
●《布川花祭-五方立・禰鬼》(愛知県北設楽郡東栄町/2016年撮影/春日聡)
●《坂部の冬祭り-山の神問答・反問》(長野県天龍村/2012年撮影/春日聡)
●《新野雪祭り-乱声・宝船・さいほう》(長野県阿南町/2013年撮影/春日聡)



春日 聡(映像・音響作家/映像人類学)

1991年より日本列島各地およびバリ島を中心としたインドネシアで、祭祀儀礼や音楽・芸能などの無形文化や聖地に関する調査研究ならびに映像・音響作品制作を行う。記録映画『スカラーニスカラバリの音と陶酔の共鳴』『シガベンーバリ島クルク村の火葬儀礼』『五島列島の堂の念仏行事における太鼓踊り』等。インスタレーション作品、映像、音響作品を多数発表。多摩美術大学、常盤大学、駒沢女子大学講師(非常勤)。www.akirakasuga.com

『舞のラリーズ』『夕焼け楽団』『サンセツツ』と音楽演奏グループで活躍。90年代以降はプロデューサーとして多くのアジアの音楽。2000年代は宮古島を中心とした南島音楽、各地の祭礼音楽、ブラジル北部音楽を紹介するCDを制作。最新作は『群上白鳥』ドキュメンタリー映画『スケッチ・オブ・ミヤウク』企画原案、出演、製作。『世界の音を訪ねる』(岩波新書)を出版。

踊るチベット チベット仏教の贈与儀礼と芸能

チベットの仏教寺院や村落で行われるまごがして作られた供物トルマを捧げる儀礼「ソルカ」。死者の身体を捧げる鳥葬儀礼「チュウ」。現地でも実際に「チュウ」を学んだフィールドワーカーとともに踊る贈与儀礼とそれらにまつわる芸能を観ながら、半農半牧社会の生活に残された狩猟時代の痕跡を辿ります。何とそこには、かつてフィールドで出会った人の若き日の姿が!

佐藤剛裕(チベット研究)

1990年代よりインド・ネパールのチベット仏教圏を訪れ、北インドのデラドゥン市郊外に再建されたチベット仏教ニマ派の寺院にて密教の基礎を学んだ後、ドルポやムスタンなどで伝承されている鳥葬儀礼「チュウ」を学んだ。2010年からは2年間にわたってトヨタ財団の助成によりチュウ文献保存継承プロジェクトを実施し、手書き文書の翻刻出版を行った。

- ◎【"チャム"踊り】(E0263/シッキム/シッキム・ラマ)1950年/12分/サイレント
- ◎【仏教徒巡礼の踊り】(E0260/東チベット/チベット人)1950年/4分/サイレント
- ◎【インド・ダルムサラでの絵解き"ラマ・マニ"】(E2396/インド チベット/仏教徒)1970年/8分
- ◎【1972年の回曆の儀式と祭り1インド・デーラズンでの祭りの準備と黒帽子の踊り"ズヴァ・ナグ・ギチャム"】(E2389/インド チベット/仏教徒)1970年撮影/17分/サイレント
- ◎【1972年の回曆の儀式と祭り2インド・デーラズンでの大晦日の感謝の供物:守護神への捧げ物】(E2390/インド チベット/仏教徒)21分30秒

特別上映 ●《密教舞踊祭マニ・リンドウ》(ネパール・ソコクン地方/2012年/佐藤剛裕) ●《鳥葬儀礼チュウの舞踊》(ネパール・ドルポ地方/2012年/佐藤剛裕)



エンサイクロペディア シネマトグラフィカ

＝ECフィルムとは？

EC

1952年、ドイツ・国立科学映画研究所ではじまった映像の百科事典計画。民族学、生物学、技術科学の3つのジャンルからなり、数多くの研究者・カメラマンが世界各地に赴き、現在は失われた暮らしの技法や儀礼などの貴重な記録を含む、3000タイトル強の映像アーカイブを制作しました。現在400弱のタイトルがデジタル化され、日本国内向けに貸し出されています。

あなたもフィルムを 借りてみませんか？

小さな集まりで観てみたい。個人の研究に使いたい。授業の教材に。ものづくりの参考にしたい、など。本上映会の他にも小学校の授業、美術展やイベントでの利用、「ECラボ」(世田谷生活工房)などでこの映像を使った実験的な試みが始まっています。借り方など詳しくはサイトをご覧ください。

ECフィルムのデジタル化 などにご協力ください。

まだまだデジタル化されていないフィルムがたくさんあります。ECフィルム活用、運営のための寄付金、運営ボランティアなど募集しています。ECという宝の箱の蓋をいっしょに開けていきましょう！

ECサイトができました。全タイトルの検索、お知らせ、貸し出し方法、読み物など、「EC活用プロジェクト」が運営しています。

<http://ecfilm.net/>

ECフィルムを所蔵しているのは…

公益財団法人下中記念財団

日本では、「百科事典」の平凡社を興した下中弥三郎を記念して設立された(公財)下中記念財団が1970年よりECフィルムの全巻を取得し管理運用をしてきました。16mmフィルムというメディアの衰退とともに見るのが難しかった映像を改めて見直すために、2012年、新たに「EC活用プロジェクト」が立ち上がり、活用方法を試行錯誤しています。



企画協力したのは…

NPO法人 FENICS

www.fenics.jp

学問分野や産学の壁にとらわれずフィールドワークの経験を共有して、新たな知を生み出そうとするネットワーク。200人を超えるメンバーが集い、フィールドワークをめぐる多彩なエッセイを寄稿する「100万人のフィールドワーカーシリーズ」を刊行しています。

Fieldworker's
Experimental
Network for
Interdisciplinary
Communication

主催：公益財団法人下中記念財団

企画：下中邦彦記念映像活用委員会 / NPO法人FENICS / EC活用プロジェクト(下中葉穂、丹羽朋子、飯塚利一、ポレポレタイムズ社) 映像提供：公益財団法人下中記念財団
協力：株式会社 東京光音 / 三井物産グローバルロジスティクス株式会社 / 株式会社シネヴィス / 株式会社リマ / 株式会社イワタ / 笹川科学研究助成(29-818 代表者 丹羽朋子)
公益財団法人せたがや文化財団生活工房 / NPO法人 アートフル・アクション / ポレポレ東中野 宣伝美術：大橋祐介

12/2 土 → 8 金 連日 19:00~

特別鑑賞券：1回券 2,000円 / 3回券 5,400円 ポレポレ東中野にて発売中

当日料金：2,200円均一 ※全席自由席・整理番号順入場 ※特別興行につきポレポレ東中野回数券は使用できません。



ポレポレ東中野

TEL 03 3371 0088
www.mmjp.or.jp/pole2/

JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分